

件 名	第 23 回蒲田都市づくり推進会議	
日 時	令和 8 年 7 月 1 日（水） 14：00～15：30	場 所：蒲田地域庁舎 小会議室 1・2
出席者	22 名中 21 名出席（欠席 1 名）別途資料参考	
配布資料	第 23 回蒲田都市づくり推進会議資料	

◆開会

- ・大田区 鉄道・都市づくり部 鉄道・都市づくり担当係長より挨拶及び資料確認
- ・日本大学理工学部 土木工学科 大沢教授（座長）より開会挨拶

◆出席者紹介

- ・大田区 鉄道・都市づくり部 鉄道・都市づくり担当係長より
新たな委員の紹介を行った。

◆資料説明（報告）

- ・大田区 鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長より
東急多摩川線・新空港線計画に関する都市計画素案説明会の開催について説明（資料 1）
- ・大田区 都市基盤整備部 建設工事課長より
蒲田駅東口地下自転車駐車場整備工事の今後の予定について説明（資料 2）

◆資料説明（議事）

- ・大田区 鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備担当課長より
蒲田駅東口駅前広場整備の今後の進め方について説明（資料 3）
- ・大田区 鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長より
蒲田駅西口周辺のまちづくりについて説明（資料 4）

◆意見交換

小峰委員）

蒲田駅東口地下自転車駐車場工事について、令和 11 年頃まで工期が延期するにあたって、帰宅困難者対策としての駅前滞留スペース、救急車や消防車の通行導線を確保できるのか。また、台風や地震といった災害の対策など、どのように検討されているか。

⇒今後は地上の仮囲いはステップ図のとおり中心部に集まることから、現状よりはスペースが広がる見込みである。滞留スペースについては、駅前広場だけでなく、例えば区役所本庁舎やアプリコなど、区全体で検討していくことになると考えている。災害対策については、施工業者に災害時の点検を行いながら安全な現場としていけるよう情報共有している。引き続き、安全な施工はもちろんのこと、皆様が安心して歩いていただける空間としていく。（区）

藤田委員）

蒲田駅東口地下自転車駐車場工事について、工期中は施工ステップ図を見ると駅に向かって両サイドの道が非常に狭く見えるが、例えばタクシーやバスの通行制限を設けるといったような考えはあるか。

⇒バスも通行可能な幅を確保している状況である。バスもタクシーも駅前で皆様に使用していただけるよう、引き続き安全に車両が通行可能な幅で施工していく。（区）

蔵方委員）

蒲田駅西口の開発については、今後進められる新空港線（蒲蒲線）の整備等を含めて検討していかないと、計画そのものが破綻してしまう。東口と異なり、西口は道路が狭く空間が小さい。そういった現状の課題をしっかりと考えてほしい。具体案として、例えば池上線を地下に移設し、それによって生まれた地上スペースを広場として活用するような、柔軟な発想での開発を検討していただきたい。

⇒新空港線整備や、その後に派生してくる開発の話、また池上線の地下化・広場化の構想など、現在さまざまな意見が出ていることは認識している。区としては、そういった要素も含みながら、蒲田西口エリアとして「どういったまちの構造を目指していくのか」、地区計画の中でまずは皆様から「どのようなまちの将来

像を目指していくのか」という根本的なビジョンの部分から、しっかりと議論を重ねていきたいと考えている。(区)

望月委員)

蒲田東口駅前広場の整備について、14年後の新空港線(蒲田線)開通を目指し、駅ビルの更新と駅前広場の整備が同時に起きることで、大規模な再開発が予想される。このようにまちが大きく変わる中で、駅への出入りや商店街への出入り、つまり「人の流れ」の変化や、それに伴う「地元商店街の商売への影響」について、区はどのように考えているのか。

⇒駅前再開発が想定されている蒲田駅東口駅前広場に面する2つの街区については、すでに「準備組合」が設立されている。現在、今後の計画について地域への説明を行っている最中であり、その説明を踏まえながら、各種行政機関との協議・調整も最終段階に入っている。この調整が整い次第、区としては都市計画の決定手続きを進めていく方針である。(区)

蒲田駅西口は、東日本大震災の際、駅前が人で溢れ車が完全に孤立した。蒲田西口6・7丁目などは道路が狭い上に木造建築物が多く、ひとたび火災が起きれば甚大な被害になる恐れがある。環状八号線から直接乗り越えられるような、東急線下を通るアンダーパス化などの道路整備の検討や幹線道路、道路計画を駆使した、安心・安全が担保される「災害に強い道路付け(まち)」を検討いただきたい。(望月委員)

⇒東日本大震災時に、池上線の踏切が閉まり続けたことで車が滞留・孤立した事実は区としても認識している。戦災復興の区画整理などは入っているものの、依然として道路の基盤が弱いこと、および沿道の不燃化(火災対策)が進んでいないといった課題がある。道路の基盤整備を推進すると共に地区計画などのまちづくりの手法を用いて、沿道の不燃化や不燃建築物への建て替えを誘導していけるよう議論していきたい。(区)

田中(彰)委員)

私案だが池上線を地下化することで、地上を広場として活用でき、かつ踏切や路線の撤去により周辺の車通りも改善されると考える。西口の抱える諸課題を一括で解決できるため、ぜひ検討してほしい。

蒲田東口駅前広場の今後の進め方について、人と車両の「ウォークブル」の議論が多いが、自転車の視点はどうか。ポプラード通りは現状でも通行がギリギリに見え、時間帯によっては多くの自転車がスピードを出して東口に向かってくることが想定される。バスの停車場と自転車の走行レーンが交錯することは非常に危険である。地下駐輪場ができて便利になるのは良いが、安全面が形骸化しないよう、警察等とも連携し「歩行者・自転車・自動車」の三者が事故を起こさないための詳細な計画を検討してほしい。

⇒蒲田警察署と連携し、自転車の車道通行の原則と今後の法改正等の変容を踏まえ、歩行者・自動車を含む全利用者の安全を確保する計画を検討している。区は自転車の安全性に関する課題を認識しており、包括的な交通ルールの変容を加味した対策を進める方針である。(区)(大沢座長)

藤田委員)

蒲田東口駅前広場の整備に伴い、まちとしての意見が上がっている中で、まちからの意見を本当に検討してもらえているのか分からないため、区とJRの間の協議の具体的な進捗状況を伺いたい。例えば、北口連絡通路を整備する方針はあるが、北口改札の要望もあるところである。

⇒現在はまだ初期段階であり、「東西自由通路」と「北側連絡通路」の整備方針に関する基本的な協議を行っている。地域の皆様から上がっている声は、区が適宜JR側へまちのご意見として今後もお伝えする。(区)

宮澤委員)

駅ビルに向かう荷捌き車両の通行による影響で道路の路面が凸凹しており、障がい者や高齢者には歩きにくく、区役所方面へ行きづらい状況が続いている。誰もが歩きやすい安全なまちとなるよう整備してほしい。⇒工事期間中のまちのあり方についても検討や対策をしていく必要がある。(大沢座長)

⇒該当箇所についてはJR用地内であり、現在の路面状況についてはJR側に改善を求めていく。また、歩行者と荷捌き車両が交錯している状況については「蒲田駅周辺地区再編プロジェクト」でも課題として位置付けており、JR側に対して、現状の動線課題の解消を要望している。地域の皆様の「安心・安全」を最優先とし、具体的な課題解決と将来的な歩行者空間の拡充を目指し、JRと協議を継続していく。(区)

田中（常）委員）

蒲田駅東口における JR とのまちづくりにおいて、行政だけに任せるのではなく、民間やまちの声を JR のまで直接届けられるようなルートを模索したい。JR を単なる「交渉相手」や「要望先」とするのではなく、地権者・鉄道会社として同じ目線でまちづくりに主体的に参画させるべきである。また、断片的なお願いに終始するのではなく、お互いにメリットがあるような全体的な工夫を凝らした提案をするべきである。先ほど話題に上がった荷捌きの課題を含め、点ではなく「駅まち空間全体」として一体的に捉えて議論を構築すべきである。初動期デザインプランもかなり古いものであるため、今後一緒にしっかり考えていきたい。

⇒小さな要望の積み重ねも大事だが、駅ビル建て替えや東西自由通路のような大規模事業は、全体の交通計画とセットで JR と総合的に協議・調整し、そこにまちの声を反映させていくアプローチが不可欠である。地下自動車駐輪場の基盤整備が進む現段階において、今後は駅ビルと駅前広場の両サイドで工事が本格化していく。複数の工事が重なることで生じうる地域の皆様や利用者へのご不便の影響が最小限となるよう、行政がしっかりと間に入って調整・協議していく。（区）

森田委員）

蒲田駅西口のまちづくりについて、蒲蒲線開発と連動させて検討すべきと考える。蒲蒲線を整備する「羽田エアポートライン」のメンバーを西口の推進会議に加えることは可能であるか。

⇒蒲蒲線の整備は現在、事業認可を受けて詳細な調査・設計を行っている段階であるため、今後さらに計画が具体化した段階で、将来のまちづくりと一体的な整備ができるよう検討していく。（区）

区議 小峰委員）

2040 年の本格的な自動運転化を見据え、今後は定時運行の大型バスよりもスマホ配車の小型自動シャトルバス等の需要が増えることも予想されるため、それに合わせた停留スペースの拡充など、将来的なモビリティの変化に対応した空間設計を期待できるか。

⇒現在はモビリティの転換期であり技術革新が急速に進んでいる。現時点ですぐにバスやタクシーなどの配置を具体的に固定することは難しいものの、今後の技術革新の動向を見極めながら、中長期的な視点で交通広場のあり方を議論・検討していく。（区）

大森副座長）

蒲田東口駅前広場におけるタクシー降車場の配置や、蒲蒲線開通によるシャトルバス交通量の変化を踏まえた今後のレイアウト案について伺いたい。また、今後の西口の広場はどうあるべきと考えているか。

⇒蒲田東口駅前広場については、タクシー降車場は別途設けるが、乗車待ちの車両がなければ乗車場を降車場として兼ねる運用を想定している。詳細なレイアウトは所管の警察署の意見や指摘を踏まえて見直していく。蒲田西口駅前広場については、交通機能の分担や交通ネットワーク自体を見直す時期であると認識しており、今後の検討の中で駅前広場のあり方も合わせて議論していく。（区）

以上

◆会議の様子



(敬称略)

役職	区 分	氏 名	所属・役職等
座長	学識 経験者	大 沢 昌 玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授
副座長		大 森 文 彦	東京科学大学 環境・社会理工学院 准教授
委員	地元 関係者	小 山 君 子	蒲田東地区自治会連合会 会長
		藏 方 庸 光	蒲田西地区自治会連合会 会長
		田 中 彰 一	蒲田東口地区まちづくり協議会 会長
		藤 田 義 行	蒲田東口商店街商業協同組合 理事長
		森 田 充 浩	蒲田西口商店街振興組合 理事長
		望 月 康 史	蒲田大好き委員会 会長
		田 中 常 雅	蒲田再開発推進委員会 委員長
		宮 澤 勇	特定非営利活動法人 大身連 理事長
	区議会 議員	大 森 昭 彦	まちづくり環境委員会 委員長
		小 峰 よ し え	まちづくり環境委員会 副委員長
	東京都	荒 井 大 介	都市整備局都市基盤部 交通企画課長 ※1
		桂 健 太 郎	都市整備局都市基盤部 街路計画課長
	大田区	和 田 真 治	鉄道・都市づくり部 鉄道・都市づくり部長
		藏 方 博 史	鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長
		吉 野 崇	鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備担当課長
		大 見 真 吾	鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長
		梅 崎 修 二	企画経営部 企画経営部長
		杉 山 良 樹	まちづくり推進部 まちづくり推進部長
		深 川 正 浩	まちづくり推進部 都市計画課長
		谷 田 川 泰	都市基盤整備部 都市基盤管理課長

※1 欠席者